

## 平成 26 年度

### 特別展 「鎌倉 鎌木清方の終の棲家」

終戦直後の昭和 21 年(1946)、戦禍で東京の家を失った清方は、疎開先の御殿場から鎌倉の材木座へ移った。「内に居れば閑静で、戸外へ出れば賑やかなところ」を求めた清方にとって、比較的東京に近く閑静な鎌倉は理想的な地に映り、終の棲家とした。昭和 29 年(1954)には、当美術館のある雪ノ下に居を構え、同年文化勲章を受章した。この地で優美な女性の美を追求したほか、随筆も執筆していた。本特別展では、清方の鎌倉在住時代の作品を中心に紹介した。

会期 平成 26 年 4 月 18 日(金)～5 月 21 日(水) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,136 人(一日平均:101 人)



#### 関連事業

「鎌倉ミュージアムめぐりスタンプラリー」【開催期間】平成 26 年 4 月 5 日(土)～12 月 14 日(日)

「逍遙・鎌倉—鎌倉の美術館と近代建築を巡る旅—」【開催日】平成 26 年 5 月 10 日(土)

世田谷美術館との連携イベント。鎌倉散策ツアーと展示解説を実施。

#### 関連記事

「鎌木清方記念美術館 特別展 鎌倉 鎌木清方の終の棲家」(広報かまくら 5 月 1 日号)

「鎌木清方記念美術館 鎌倉 鎌木清方の終の棲家」(あさひタウンメイト 4 月 5 日)

他 2 件

#### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
美人四季 新春の粧(春)	昭和 25 年(1950)	絹本着色・軸	56.5×54.0	東京富士美術館蔵
美人四季 山百合(夏)	昭和 25 年(1950)	絹本着色・軸	56.5×55.0	同上
美人四季 芳宜の細道(秋)	昭和 25 年(1950)	絹本着色・軸	56.5×56.0	同上
美人四季 燈下の読書(冬)	昭和 25 年(1950)	絹本着色・軸	56.5×57.0	同上
竜宮の乙姫	大正 9 年(1920)	絹本着色・軸	141.0×41.6	同上
三保の天人	大正 9 年(1920)	絹本着色・軸	141.2×41.6	同上
朗羅	昭和 8 年(1933)	絹本着色・額	96.0×42.5	同上

#### 【所蔵品】

「雨華庵風流」「松のうち」「僧房春蘭(牡丹の寺)」「朝夕安居」「朝夕安居(詞書)」「牡丹一・二」「喜寿」「干物」「蝶」「虫の音」「女役者条八」「柳の下に涼む娘」「砧」

下絵 「春雪」「先師の面影」「小竹博士」「江戸十五題の一 八幡鐘」「女役者条八」(2 点)「紫陽花の谷」「明治の女」「三菱銀行」「霜葉(桜の霜葉)」「榊神社奉納額」

「今様絵詞の会」下絵 「高野聖」「行徳の常夜燈」「庄屋やしき」「大広間」「李月夜」「月の江戸川」「五駄沼 その一」「詞」「麗人影像(一)」「麗人影像(三)」「下町に灯のとる頃」「大橋際のむきみや」「千葉の蛤」「下総小見川の蜷」

スケッチ 「御殿場」「鎌倉雪ノ下」「鎌倉」「雪ノ下画室よりのもみぢ」「蜷」

口絵 「小栗風葉著『麗子夫人前篇』隆文館」「五月雨『今様 夏の巻』松屋呉服店」「後藤宙外著『五日市』『新小説』 「春の人」「ゆふ暮『文藝俱樂部』」「八幡鐘『文藝俱樂部』」

風呂敷 「清方 五十日祭」志「朝顔」「文化勲章受章記念「扇子に橋」

うちわ 「雁皮 鶴岡八幡宮」「美人 日傘」

テーブルセンター 「鎌木清方展」記念「あじさい」

その他 「水野年方 肖像写真」「条八 山本笑月・著『明治世相百話』 有峰書店」「伊東深水作《鎌木先生寿像》資料」「こしかたの記(表紙装丁)」「續こしかたの記(表紙装丁)」「『こしかたの記』書籍」「『續こしかたの記』」

## 特別展 『観る・読む・描く』 鏗木清方と文学—硯友社を中心に—

鏗木清方は、少年の頃から硯友社をひきいる人気作家・尾崎紅葉の著作を好んで読んでいた。挿絵画家をめざして励むなか、硯友社の山岸荷葉に出会い、紅葉をはじめ泉鏡花などの社の人々と知り合った。中でも紅葉と鏡花の著作に口絵を描いたことは、その素晴らしい出来映えとともに清方の名を多くの人を知る機会となった。

本展覧会では、硯友社の小説に取材して描いた作品を中心に、初夏の情趣あふれる作品を紹介した。

会期 平成 26 年 5 月 24 日(土)～6 月 29 日(日) (開館日数:31 日)

総入館者数 2,786 人(一日平均:89 人)



### 関連事業

「鎌倉ミュージアムめぐりスタンプラリー」【開催期間】平成 26 年 4 月 5 日(土)～12 月 14 日(日)

美術講演会「鏗木清方 人と芸術」 【講師】河野元昭氏(京都美術工芸大学学長)

【日時】平成 26 年 5 月 26 日(月) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

「鎌倉の小さな美術館へようこそ」【開催期間】平成 26 年 5 月 24 日(土)～8 月 26 日(火)

北鎌倉 葉祥明美術館との連携事業。日・英語版チラシを配布し、入館料の相互割引を実施。

「日本画材を使って、団扇に絵を描こう(日本語・英語対応)」【日時】平成 26 年 6 月 8 日(日)、15 日(日)

### 関連記事

「鏗木清方記念美術館 『観る・読む・描く』鏗木清方と文学—硯友社を中心に—」(広報かまくら 6 月 1 日号)

「『観る・読む・描く』鏗木清方と文学—硯友社を中心に—」(江ノ電沿線新聞 6 月 1 日号)

他 2 件

### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
金色夜叉「名作絵物語」 『苦楽』挿絵原画	昭和 22 年(1947)	紙本着色・折帖	(各)26.9×21.0	個人蔵
真寄祠前写景	昭和 11 年(1936)	絹本着色・軸	56.2×72.2	長谷寺蔵
晩涼	大正 9 年(1920)	絹本着色・軸	171.0×71.8	東京国立近代美術館蔵
日本橋「名作絵物語」 『苦楽』挿絵原画	昭和 23 年(1948)	紙本着色・折帖	(各)27.6×21.4	個人蔵

### 【所蔵品】

「金色夜叉の絵看板」「一葉女史の墓」「深沙大王」「二人静」「ふたつあちさみ」「芍薬」「築地明石町の船・詞」「浅みどり」「註文帖(第 1～13 図)」

下絵 「小説家と挿絵画家」「築地明石町」

『苦楽』表紙絵 「高野聖(表紙絵、表紙絵下絵(2 点))」「紅梅屋敷(表紙・表紙絵下絵)」

『現代名作集』口絵 「高野聖(口絵原画・口絵下絵)」

『新小説』口絵 「起誓文(口絵)」「舞の袖(口絵)」「胡蝶の曲(口絵)」「瓔珞品(口絵校正摺)」「戀女房(口絵口絵 校合摺)」「伊勢の巻(口絵・口絵校合摺)」

泉鏡花著作関連 「高野聖(口絵)」「田毎かづみ(口絵、口絵校合摺)」「婦系図(後篇)表紙」「婦系図(表紙下絵)」「昭和全集(表紙装丁)」「薄紅梅(口絵)」

山岸荷葉著作関連 「紺暖簾(表紙絵校正摺、口絵校合摺)」

尾崎紅葉著作関連 「金色夜叉繪卷(挿絵下絵、挿絵)」「金色夜叉(『紅葉全集』口絵)」「尾崎紅葉原著・溝口白羊作詩『家庭新詩 金色夜叉の歌』(口絵)」「続編金色夜叉(口絵)」「鳴澤宮の像(『婦人倶楽部』附録 口絵)」「合本金色夜叉(口絵・口絵校合摺)」

江見水蔭著作関連 「大幻燈(口絵)」「誰が罪(口絵)」「美人船(口絵)」「『霧姫』前編(口絵)」「大暗礁(口絵・下絵)」

柳川春陽著作関連 「女一代(口絵)」

その他 「築地明石町 切手」「心中船(口絵)」「夢裏の雛妓(『新著月刊』第 4 号「紅筆」口絵)」

## 企画展 「清方の挿絵ができあがるまで」

挿絵は、画家の間で「挿絵」「応用」「版画」などと呼ばれていた。明治まで、江戸浮世絵版画の制作工程を引き継ぎ、雑誌や書籍の巻頭を飾った大家の筆による口絵は読者に喜ばれた。

清方は、16歳頃から挿絵の仕事を始め、口絵を手掛ける画家になるために、新聞挿絵を数多くこなし、腕を磨いた。やがてその技量が認められて口絵の挿絵に抜擢され、その作品は読者の人気を博した。

本展覧会では、挿絵が出来上がるまでの工程とともに、夏の風情豊かな作品を紹介した。

会期 平成26年7月4日(金)～8月26日(火)

(開館日数:47日)

総入館者数 2,708人(一日平均:57人)



### 関連事業

「夏休み子ども参加プログラム」【テーマ】日本画材を使ってうちわに絵を描こう！

【開催日時】平成26年7月19日(土)・8月2日(土)13:30～15:30・8月30日(土)10:00～15:00

「親子参加プログラム 親子で美術館へ行ってみよう!」【開催日時】平成26年7月31日(木)9:30～11:30

「夏休み親子鑑賞」【開催期間】平成26年7月4日(金)～8月26日(火)

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー【開催期間】平成26年4月5日(土)～12月14日(日)

「鎌倉の小さな美術館へようこそ」【開催期間】平成26年5月24日(土)～8月26日(火)

北鎌倉 葉祥明美術館との連携事業。日・英語版チラシを配布し、入館料の相互割引を実施。

「日本画材を使って、団扇に絵を描こう(日本語・英語対応)」【日時】平成26年7月19日(土)、8月2日(土)

### 関連記事

「鎌木清方記念美術館 企画展 清方の挿絵ができあがるまで」(旅うらら 鎌倉・湘南ガイドMAP 7月4日)

「鎌木清方記念美術館 企画展 清方の挿絵ができあがるまで」(広報かまくら 7月15日号)

「鎌木清方記念美術館 企画展 清方の挿絵ができあがるまで」(鎌倉逍遥 創刊号) 他5件

### 出品作品

「嫁ぐ人」「蚊遣の煙」(『文藝倶楽部』口絵)、「泉鏡花著『神鑿』(口絵)」「手賀沼(当館寄託)」「小楠公弁の内侍を救う」「清流」「砂浜少女」「清子四歳像」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「カルメン」「夕立雲」「ゆあみ」「ゆかた」「あじさい」

下絵 「八幡鐘」「野崎村」「日高川 道成寺」

『文藝倶楽部』 「鸚鵡(口絵下絵・口絵校合摺・口絵差上・口絵)」「海風(表紙絵)」「湯治場(石版口絵)」「あさ露(口絵下絵・口絵校合摺・口絵)」「梅雨晴(口絵下絵・口絵校合摺・口絵)」「よき事きく(口絵下絵・口絵校合摺・口絵)」「白鳥(口絵下絵・口絵校合摺・口絵)」「小春(口絵下絵・口絵校合摺・口絵)」「都鳥(口絵下絵・口絵校合摺・口絵)」「いで湯の夕べ(口絵下絵・口絵校合摺・口絵)」「ひともし頃(口絵下絵・口絵校合摺・口絵)」「蚊やりの煙(口絵)」「黒河内桂林著「握手」(挿絵下絵・挿絵校正摺)」

『清方美人畫譜』 「幕間」「五月雨」「午後海」「春雨の寮」「白壁」「青き星」「初雪」「湖のほとり」「濱町河岸の秋」「島田くづし」

口絵 「神鑿(口絵校合摺・口絵差上げ)」「楊柳歌(『新小説』口絵)」「風流線(口絵下絵・口絵校合摺・口絵差上げ・袋装丁下絵・木版袋装丁・木版表紙装丁・口絵・口絵(写真版))」「續風流線(木版袋装丁)」「菊池幽芳著『売花娘』(口絵)」「眞山青果著『空虚』(『新小説』口絵)」「盆提灯(清方畫譜の七)(『講談雑誌』口絵)」「戀の湊(清方畫譜の八)(『講談雑誌』口絵)」「村井弦斎著『日の出島 朝日の巻』下巻(木版口絵)」

うちわ 「露草」「のれん」「朝顔」

「鎌木清方・鯨崎英朋 畫報堂報條」

## 企画展 「手もとで味わう 清方の芸術—卓上芸術と秋の風情—」

鏗木清方は、細かな筆遣いまで味わうことができる「卓上芸術」という作品形式を大正期に提唱した。展覧会場に展示される「会場芸術」とも、床の間に飾られる「床の間芸術」とも異なり、卓上に広げ、手に取って楽しむことのできる作品である。

本展覧会では画卷や画帖、画譜といった「卓上芸術」を用いて、文学作品や戯曲、市井の暮らしや風景に取材した作品とともに、秋の情趣あふれる作品を紹介した。

会期 平成 26 年 8 月 30 日(土)～10 月 21 日(火)

(開館日数:48 日)

総入館者数 3,515 人(一日平均:73 人)



### 関連事業

「鏗木清方誕生日記念イベント」【日時】2016 年 8 月 31 日(日)

ご来館のお客様(先着 30 名)に絵はがきをプレゼント

「もっと知りたい！日本画家・鏗木清方と小説家・大佛次郎」

【開催期間】平成 26 年 10 月 31 日(金)～平成 27 年 3 月 8 日(日)

期間中、大佛次郎記念館と入館料の相互割引のほか連携事業を実施。

「鎌倉ミュージアムめぐりスタンプラリー」【開催期間】平成 26 年 4 月 5 日(土)～12 月 14 日(日)

「日本画材を使って、団扇に絵を描こう(日本語・英語対応)」【日時】平成 26 年 8 月 30 日(土)

### 関連記事

「鏗木清方記念美術館 企画展 手もとで味わう清方の芸術—卓上芸術と秋の風情—(読売ファミリーサークル入場招待券 8 月 30 日～10 月 21 日)」

「企画展 手もとで味わう清方の芸術」(朝日新聞 8 月 27 日)

「鏗木清方記念美術館 企画展 手もとで味わう清方の芸術—卓上芸術と秋の風情—」(広報かまくら 9 月 1 日号)

「鏗木清方記念美術館 企画展 手もとで味わう清方の芸術—卓上芸術と秋の風情—」(湘南百撰 9 月 1 日号)

他 3 件

### 出品作品

「桜もみぢ」「夏の思い出」「孤児院」「注文帳畫譜」「龍膽」「菊慈童」「狐狗狸」「秋草(寄託作品)」「雑司ヶ谷会」

「教誨」「金沢絵日記(二)」

下絵 「菊花節」「伽羅」「瀧野川観楓」「お夏清十郎物語(第四回)」「築地川界限『佃の渡』」

スケッチ 「碓氷紅葉」「栗」

『講談雑誌』 「九月の海(清方畫譜の九)」「旅愁(清方畫譜の十)」「秋のおとづれ」

菊池幽芳著作関連 「菊池幽芳著『百合子』後編」「『百合子画集』上・下」「『小ゆき』前編」「月魄 藤乃の巻」

『文藝俱樂部』口絵 「八幡鐘」「こすもす」「夜長」

『少女界』口絵 「コスモス」「観菊」「葡萄」

口絵 「小杉天外著『落花帖』下巻」「広津柳浪著『仇と仇』」「田口掬汀著『情の人』」「小栗風葉著『戀学生』」

「美登利像(鈴木敏也著『たけくらべ評釈』口絵)」「泉鏡花著『婦系図』(『日本近世大悲劇名作全集』第 7 卷)」

「泉鏡花著『薄紅梅』」「芝居茶屋の二階(『演藝俱樂部』口絵)」「女十題(『新小説』口絵)」「散るいてふ(『婦人世界』口絵)」「秋の旅」「思ひ出」「妙義山」「秋漸く深し」「栗むく女」「菊」「微笑」「秋ばれ」

東京 築地川『画集 東京と大阪』 「亀井ばし」「築地橋」

注文帳畫譜

## 特別展 「清方描く 季節の情趣—大佛次郎とのかかわり—」

昭和 21 年(1946)、小説家・大佛次郎主宰の文芸雑誌『苦楽』が創刊された。大佛次郎は日本なら  
ではの美意識や、培ってきた文化を世に示そうとし、雑誌の顔となる表紙絵を格調高いものにする  
ため、清方に依頼。清方は久々となった雑誌の仕事に情熱を傾け、33 点の表紙絵を描いた。  
毎号の表紙絵を揃えると「美人画十二ヶ月」となるよう、月ごとの季節感を明治の庶民生活や  
愛読した小説、芝居の一場面とともにあらわしている。本特別展では、清方が『苦楽』のために  
描いた作品を中心に紹介した。

会期 平成 26 年 10 月 31 日(金)～12 月 4 日(木) (開館日数:31 日)

総入館者数 2,722 人(一日平均:87 人)



### 関連事業

「美術講演会」大佛次郎と『苦楽』—美術との接点

【講師】猿渡紀代子氏(横浜美術館・大佛次郎記念館 特任研究員) 【日時】11 月 11 日(火) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

「もっと知りたい! 日本画家・鏑木清方と小説家・大佛次郎」(大佛次郎記念館との相互割引他連携事業)

【開催期間】平成 26 年 10 月 31 日(金)～平成 27 年 3 月 8 日(日)

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー 【開催期間】平成 26 年 4 月 5 日(土)～12 月 14 日(日)

### 関連記事

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 特別展 清方描く季節の情趣—大佛次郎とのかかわり」(鎌倉逍遙 秋号)

他 7 件

### 出品作品

作品名	技法/材質・形状	サイズ	作品名	技法/材質・形状	サイズ
『苦楽』表紙絵原画(昭和 22 年(1947) 個人蔵)					
舞妓	絹本着色・画帖	28.4×23.3	神田祭	絹本着色・画帖	26.5×24.0
雪	絹本着色・画帖	29.2×27.4	菊	絹本着色・画帖	29.4×27.0
湯の宿	絹本着色・画帖	27.4×25.6			
『苦楽』表紙絵原画(昭和 23 年(1948) 個人蔵)					
王子詣	絹本着色・画帖	29.4×27.1	ふた昔	絹本着色・画帖	29.7×27.5
春雨	絹本着色・画帖	28.9×27.5	箱庭	絹本着色・画帖	28.8×27.6
菖蒲湯	絹本着色・画帖	27.9×27.1	芙蓉	絹本着色・画帖	29.1×27.5
宇治の螢	絹本着色・画帖	29.2×27.2	松の内	絹本着色・画帖	29.2×26.7
『苦楽』表紙絵原画(昭和 24 年(1949) 個人蔵)					
紅梅屋敷	絹本着色・画帖	29.7×27.4	たけくらべの美登利	絹本着色・軸	29.7×27.4
堀川波の鼓	絹本着色・軸	28.8×27.5	牡丹	絹本着色・台紙	29.7×27.4

### 【所蔵品】

「砧」「雪空」「鯉」「干物」「舞妓」「子供二人」「山百合」 下絵:「十一月の雨」「雪旦」「茶の間の秋」「堀川波の鼓」  
(2 点)「少女像」「初雁の御歌(小下絵)」「山茶花の窓」「柿と童」「墨田晚風」「高野聖 今様絵詞の会」

『苦楽』表紙絵 「王子詣」「春雨」「雪」「花野」「紅椿」「堀川波の鼓」「たけくらべの美登利」「金色夜叉」「錦繡の  
秋」「日本橋」「道成寺」「きさらぎ」「あまのがは」「西鶴のお七」「田舎源氏」

『苦楽』表紙絵、下絵 「紅梅屋敷」「菖蒲湯」「宇治の螢」「湯の宿」「ふた昔」「舞妓」「牡丹」「箱庭」「芙蓉」「神田  
祭」「菊」「松の内」「高野聖(下絵 2 点、表紙絵)」「弥生」「花菖蒲」「曇」「訪問(仮題)」「春を待つ」「草枕」「高尾ざ  
んげ」 『苦楽』表紙絵下絵のみ「葛の葉」「吉野山」

『新小説』口絵 「虎の門 見立十二姿の内」「小山内薫著『試験』」

『講談雑誌』口絵 「娘ざかり」「嬌音(清方畫譜の二)」「霖雨の頃(清方畫譜の六)」「朝寒(清方畫譜の十一)」

その他口絵 「横恋慕」「恋女房」「白浪女」前編(口絵下絵、口絵)『白浪女』後編(口絵下絵、口絵)「矢口  
渡」「新緑(銅臭)(『新小説』口絵)」「岩窟穿」「千軒長者」「にせ紫」後編(口絵下絵、口絵)『魔風恋風』中編  
(口絵下絵、口絵)「高野聖(『現代名作集』口絵原画)」「あさ露(『文藝倶楽部』口絵)」

その他「大佛次郎著『薔薇の騎士』 清方蔵書」

## 新春企画「羽子板と正月の風情」

羽子板は正月の風物として、日本古来より親しまれてきた。江戸時代になると押絵羽子板が見られはじめ、色とりどりの豪華な意匠は現代に伝わっている。

清方は、押絵羽子板の研究団体の顧問を務めていたことがあり、会には押絵師・吉田永光や永井周山が属していた。吉田永光は、大正11年に第4回帝展に出品された清方作《春の夜のうらみ》を押絵羽子板に意匠化し、永井周山は昭和十年に個展へ出品された《明治風俗十二月》をもとに制作していく。このように清方の情趣に満ちた作品は押絵師たちの制作欲をかきたてるものとなった。本展覧会では、押絵羽子板を中心に、清方が描いた初春の風情豊かな作品を紹介した。



会期 平成26年12月12日(金)～平成27年1月18日(日)

(開館日数:30日)

総入館者数 1,939人(一日平均:64人)

### 関連事業

「鏑木清方と山口蓬春—吉田五十八建築にみる日本画家の画室」

【期間】平成27年1月4日(日)～平成27年2月22日(日)

建築家・吉田五十八(1894～1974)が設計した画室をこよなく愛した清方と蓬春の記念美術館が連携し、相互割引と鑑賞イベントを実施。期間中はワークシートを用意した。

「もっと知りたい!日本画家・鏑木清方と小説家・大佛次郎」

【開催期間】平成26年10月31日(金)～平成27年3月8日(日)

### 関連記事

「鏑木清方記念美術館 新春企画 羽子板と正月の風情」(鎌倉逍遥 冬号)

「鏑木清方記念美術館 羽子板と正月の風情 押絵羽子板を中心に初春の風情豊かな作品」(鎌倉朝日 12月1日号)

「鏑木清方記念美術館 新春企画展 羽子板と正月の風情」(湘南百撰 12月1日)

「鏑木清方記念美術館 新春企画 羽子板と正月の風情」(江ノ電沿線だより 12月1日)

他10件

### 出品作品

「永井周山作・押絵羽子板『明治風俗十二月』」「歳旦」「春の立場茶屋」「ためさるゝ日」「早春」「僧房春蘭」

「松のうち」「風景画(金澤瀬戸)」「風景画(池)」「風景画(里)」「大和路の或る家」「宝珠」

下絵 「野辺の女学生」「酒中花」「明治の女」

スケッチ 「ためさるゝ日」

村上浪六著作関連 「『最後の岡崎俊平』後編(口絵)」「『金剛盤』後編(口絵)」「『当世五人男のうち 川上三吉』後編(口絵)」「『うき世車』後編(口絵)」「『当世五人男のうち 倉橋幸藏』(年方面 口絵)」「『当世五人男のうち 倉橋幸藏』後編(年方面口絵)」「『武士道』前・後編(表紙絵)」「『当世五人男のうち 吉田雄藏』後編(袋、表紙絵)」「『当世五人男のうち 川上三吉』後編(校合摺、表紙絵)」「『最後の岡崎俊平』後編(表紙袋、表紙絵)」「浮舟」「八幡座(表紙絵)」「『当世五人男のうち 倉橋幸藏』続編(年方面口絵)」「『当世五人男のうち 上田力』(年方面口絵)」「金剛盤(表紙絵)」「『金剛盤』後編(表紙絵)」「『うき世車』前編(袋、表紙絵)」「『うき世車』後編(袋、表紙絵、校合摺)」「うき世車(口絵)」「浮舟(校合摺、口絵)」「『当世五人男 吉田雄藏』前編(菊仙画口絵)」「『原田甲斐』中編(年方面口絵)」「原田甲斐(年方面口絵)」「『当世五人男 上田力』後篇(年方面口絵)」「『当世五人男 上田力』續篇(年方面 口絵)」「『当世五人男 吉田雄藏』後編(年方面口絵)」

付録 「春装『国民新聞』」「時代美人風俗雙六『文藝俱樂部』」

口絵 「江見水蔭著『恋の浮島』」「暗香」「春を待つ『文藝俱樂部』」「元日の朝『婦人世界』 実業之日本社」「歌留多會の夜『婦人公論』」

押絵羽子板 「ためさるゝ日」「春の夜のうらみ」

「清方意匠 年賀状」

## 企画展 「鏗木清方の肖像画と美人画」

人物を伝記のように表現した肖像画、流行の着物や装身具を身につけ、楚々とした女性を描いた美人画は、どちらも清方の得意とした分野である。作品にはその人物の生活や人となり、地位、嗜好や身のこなしがあらわされ、背景には明治の東京で見られた行事、下町の景色、季節の花、江戸の面影残る人々の暮しなど、様々なものが描かれている。清方芸術の多彩な趣と奥深さを味わいながら、作品に込められた技と美を紹介した。



会期 平成 27 年 1 月 23 日(金)～2 月 22 日(日)

(開館日数:27 日)

総入館者数 2,170 人(一日平均:80 人)

### 関連事業

「鏗木清方と山口蓬春」【開催期間】平成 27 年 1 月 4 日(日)～平成 27 年 2 月 22 日(日)(相互割引)

「ちょこっと日本画・ほっこり日本茶」

「日本画材を使って小色紙に描いてみよう！—大人版！もちろんお子様も—」

【日時】平成 27 年 2 月 7 日(土) 【開催時間】9:00～15:00(14:30 参加締切)

※同日山口蓬春記念館でお菓子とお抹茶を楽しめるイベントを開催。

「Bijinga 百花繚乱 浮世絵師 VS 清方」 【開催期間】平成 27 年 1 月 23 日(日)～3 月 31 日(木)

江戸の浮世絵師から清方まで、美人画をお楽しみいただくため、太田記念美術館と入館料の相互割引を行った。

「美術館でどう観るの？ひとまず行ってみよう！[美術館鑑賞入門イベント]」

【開催日時】平成 27 年 2 月 3 日(火) 10:00～11:30

「もっと知りたい！日本画家・鏗木清方と小説家・大佛次郎」

【開催期間】平成 26 年 10 月 31 日(金)～平成 27 年 3 月 8 日(日)まで 大佛次郎記念館と入館料の相互割引

### 関連記事

「清方の人物画を堪能 ワークショップの開催も」(タウンニュース 1 月 30 日)

「企画展 鏗木清方の肖像画と美人画」(讀賣新聞 2 月 6 日)

「鏗木清方記念美術館 企画展 鏗木清方の肖像画と美人画」(かまくら四季のみどころ 2 月 1 日号)

「鏗木清方記念美術館 企画展 鏗木清方の肖像画と美人画」(広報かまくら 2 月 1 日号)

「鏗木清方記念美術館 鏗木清方の肖像画と美人画」(ばど 2 月 6 日)

### 出品作品

「しだれ桜」「梅蘭芳 天女散華」「栗をむく娘」「先師の面影」「雨華庵風流」「慶喜恭順 ※1 月 23 日～2 月 7 日まで展示」「嫁ぐ人」「白梅」「白梅」「崔承喜 一」「崔承喜 二」「鍾馗」「曲亭馬琴」

下絵 「慶喜恭順 ※2 月 10 日～22 日まで展示」「三遊亭圓朝像」「紅雨荘」「五人女のおまん」「江戸風俗」「水声」「抱一弄弦像」「築地川春雨」「木下川探梅」

スケッチ 「築地明石町のためのスケッチ」「曲亭馬琴」

未定稿 「藤懸静也博士」「一葉」

稲岡奴之助著作関連 「『貴公子』前・後編(口絵、表紙絵)」「悪魔(口絵、表紙絵)」「姉の仇(表紙絵)」「『憐れなる澄子』前編(口絵)」「三人書生(口絵)」「『小英雄』前編(口絵・表紙絵)」「『女可恐』後編(口絵)」「『痣』前編(口絵、表紙絵)」

『講談雑誌』口絵 「初夢(清方畫譜の一)」「嬌音(清方畫譜の二)」「浮いて鷗の(清方畫譜の三)」

『婦人世界』口絵 「新夫人」「さくら色」「春霞巾を着けた女」「星多き夜」

口絵 「『合本 金色夜叉』」「尾崎紅葉著『金色夜叉絵巻』」「春の人」「伽羅『文藝倶楽部』」  
「幕間『清方美人画 譜』」「さつき花」「散歩」「夕涼み」「玉づさ」

絵はがき 「乳姉妹」「天つつ波」「金色夜叉」「不如帰」「魔風戀風」「湯島詣」

その他 「風俗美人畫(一)松の内 朝日カレンダー 一月」「築地明石町(版画)」

## 企画展 「麗しき女性たち—清方の挿絵を中心に—」

日本画家鏑木清方は、若い頃、美しい女性の姿を雑誌に描く挿絵画家として拔きこんでいた。はじめは、新聞の挿絵や教科書の版下を描いて生計を立てていたが、花形文芸雑誌『新小説』と『文藝倶楽部』から口絵を依頼され、挿絵画家としての地歩を固めていった。その後、清方は挿絵の世界に留まることなく、活躍の場を日本画の世界へと移してゆく。本展覧会では『新小説』『文藝倶楽部』に掲載された彩りの美しい木版画、石版画と、同時期に描かれた秀作を中心に展示し、清方の若き日々の画業を紹介した。



会期 平成 27 年 2 月 27 日(金)～4 月 12 日(日) (開館日数:39 日)

総入館者数 2,976 人(一日平均:76 人)

### 関連事業

「Bijinga 百花繚乱 浮世絵師 VS 清方」【開催期間】平成 27 年 1 月 23 日(日)～3 月 31 日(木)

江戸の浮世絵師から清方まで、美人画をお楽しみいただくため、太田記念美術館と入館料の相互割引を実施。

「春休み親子鑑賞」【開催期間】平成 27 年 3 月 24 日(火)～4 月 7 日(火)

期間中、小・中学生及び同伴者 1 名観覧料無料

### 関連記事

「鏑木清方記念美術館 企画展 麗しき女性たち～清方の挿絵を中心に～」(広報かまくら 3 月 1 日号)

「鏑木清方記念美術館 麗しき女性たち～清方の挿絵を中心に～」(月刊書道界 3 月号)

「鏑木清方記念美術館 麗しき女性たち～清方の挿絵を中心に～」(博物館研究 2 月 25 日号)

「鏑木清方記念美術館 麗しき女性たち「新小説」等に掲載の木版画などの挿絵」(鎌倉朝日 3 月 1 日号)

他 6 件

### 出品作品

「秋宵」「寒月」「暮れゆく沼」「ほろづき」「金色夜叉の絵看板」「小楠公弁内侍を救う」「鉢植の梅松(試筆)」「有掛自祝之絵」「年増美人」「肉筆回覧誌『美術くらべー』の内《美人舞之図》」「肉筆回覧誌『研究画林巻之巻』の内《道成寺》」「肉筆回覧誌『美術くらまき乃三』の内《春色嬋妍之図》」「肉筆回覧誌『紫紅』の内《京洛の花》」  
下絵・スケッチ 「玄宗皇帝(下絵)」「日高川(下絵)」「桜 スケッチ」(4 点)

『文藝倶楽部』鏑木清方口絵 「緋桃」「そゞろあるき」「あさ露」「花吹雪(口絵・校合摺)」「爪紅」「雛壇の下」「白魚」「こほろぎ(松村コレクション)」

『文藝倶楽部』鏑木清方表紙 「海風」「藤娘」

『文藝倶楽部』鏑木清方附録 「新案雙六當世二筋道」「新年大附録「松の内」(齋崎英朋との合作)」

『文藝倶楽部』武内桂舟口絵 「月下之美人」「しぐれ(※前期)」「鳥追ひ(※後期)」「淋しき夕べ(※後期)」「秋草」「相思」「西王母」「佳人讀書」「辨内侍」「花ぐもり」(以上 松村コレクション)

『文藝倶楽部』水野年方口絵 「春の海」「傾城(※前期)」「美人の郊外写生(※前期)」「愛の花束(※前期)」「しのび音(※後期)」「美人讀書」「外科室」「扇の恨」(以上 松村コレクション)

『文藝倶楽部』梶田半古口絵 「紅蓮白蓮(※前期)」「仙錦亭(※後期)」「王夫人(※後期)」「菊のかをり」「新装の美人(※前期)」「羅浮仙※後期)」「暗香疎影」「胡蝶」「うたゝね」「梅」(以上 松村コレクション)

『文藝倶楽部』富岡永洗口絵 「五月雨」「雛祭」(以上 松村コレクション)

『文藝倶楽部』鈴木華邨口絵 「時鳥」「お花見」「春艶佳麗」「櫻狩」(以上 松村コレクション)

『文藝倶楽部』池田蕉園口絵 「逝く年」「やよひ」(以上 松村コレクション)

『文藝倶楽部』その他絵師口絵 「渡邊省亭 美人不忍池を望む」「山中古洞 梅が香」「尾竹国観 微酔」「尾竹竹坡 姉いもと」(以上 松村コレクション)

『新小説』鏑木清方口絵 「和歌の浦」「瑞香(百花百姿)」「揚柳歌」「八重子」「空虚」「試験」「新緑(銅臭)」「紅雪録」

『新小説』鏑木清方その他 「試験 口絵・校合摺」「初卯 コマ絵」「当世女模様 女官 コマ絵」「『新小説』広告」

江見水蔭著作清方口絵 「『海底の噴火』後編」「『空中飛行器』後編」「『廃船万里号』前編」「『二人女王』」

その他 「『明治・大正・昭和 挿絵文化展記念図録』(日本電報通信社) <松村コレクション/当館蔵>」